



# 自校作成問題説明会

～国語～

2020/10/24・12/5

# 八王子東高校 国語問題

1 漢字の読み

2 漢字の書き

3 文学的な文章

4 説明的な文章

5 古典（融合）

# 八王子東高校 国語問題

1 漢字の読み

2 漢字の書き

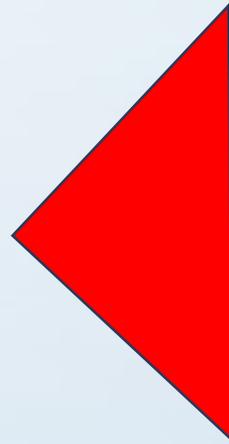
3 文学的な文章

4 説明的な文章

5 古典（融合）

# 他の大問に比べて正答率が高い

- 現代文と古典の内容を対比しながら読み進めることができるようになる。



- 教科書の古典に慣れ親しもう。

# 八王子東高校 国語問題

1 漢字の読み

2 漢字の書き

3 文学的な文章

4 説明的な文章

5 古典（融合）

# 実際の問題

1 漢字の読みがな  
を書け。

鼓吹

〇二すい

×二二ふき・二二ぶ

\* 鼓舞・吹奏楽

↓語彙力を高めて、  
既存の知識から  
読みを類推する。

# 実際の問題

監督のキョシユウが  
注目される。

○去就

文意から考える。

←  
監督の地位を去る  
のか否か。

※ 「辞去」

「就任」 ↔



活字に触れて、  
語彙をふやそう！



2 漢字を

楷書で書け。

名 球

画数を正しく書けて  
いる。  
トメ、ハネが正しく  
書けている。

# 八王子東高校 国語問題

1 漢字の読み

2 漢字の書き

3 文学的な文章

4 説明的な文章

5 古典（融合）

# 文学的な文章

物語の時間をしつかり追うことと、丁寧な心情をたどっていくことが大切。

「僕」の視点から描かれる登場人物の動作や表情に着目して読む。

問4 僕は感動していた。ピンと張り詰めていた。とあるが、なぜ僕はこのように思ったのか。千瑛や齊藤さんの絵と対比しながら、五十字以内で書け。

「僕」の心情を「千瑛や齊藤さんの絵と対比」として書く。この条件を踏まえて書く。誰の絵と二人の絵を対比するのか確認すること。

← 西濱さんの絵に対する思いを読み取る。

※理由説明の書き方に注意。

◎あくまで本文に沿って

記述をまとめよう！

# 八王子東高校 国語問題

1 漢字の読み

2 漢字の書き

3 文学的な文章

4 説明的な文章

5 古典（融合）

# 説明的な文章

段落の切れ目をしっかりとつかみ、  
具体例が表す事柄を正しく読み  
取って、論理をたどる。  
本文全体を通じて主旨をつかむ。

# 説明的な文章

問2 日本のような多重文化社会の現状とあるが、どういうことか。五十字以内で答えよ。

傍線部の「日本のような多重文化社会の現状」を文中の表現を用いて書き換える。

「日本のような多重文化社会」の特徴を説明している語句を文中から探す。

「現状」は直前の「ことばを通じて意味通ぜず」をもとに本文の具体例を活用してわかりやすく表現する。

「多重文化社会」のどんな点が具体的にどういう状況を招くかを軸にして、本文中の語句を用いながら指定字数内で記述する。

◎記述解答は設問の指示に対応した文末表現にする。

# 説明的な文章

問5 わたしは、そこに、異文化の接触、多重文化社会など、現代の「伝え合い」を考えるうえで、重要な縮図となる場所があるように感じている。とあるが、異なる文化が混在する現代において、我々は他者とどのように関わるべきだとあなたは考えるか。例を一つあげながら、二百四十字以内で書け。

設問の「〜とあるが」とは、**傍線部を踏まえよ**という意味である。（賛成・反対でなくてもよい）

何を答えるのかを確認する。

← 「我々は他者とのように関わるべき」かについて、意見を述べる。

条件に従い、自分の意見の根拠となる例を一つ示す。

# 小論文

## 問題文の指示は解答ルール

### 1 資料から課題を見つけて論じる

【資料1】 世界人口の地域別の推移と未来予測、

【資料2】 2015年の世界の水道（各戸給水）普及率、

【資料3】 SDGs 17の目標

設問内容：【資料1】 【資料2】 の問題解決のためにSDGsの目標から「6」以外で密接に関係する目標を選ぶ。その理由と自分がどう関わっていくかを具体的に述べる。

# 小論文

## 2 文章を読み、考えを書く

「『知る』と『わかる』の違い」とはということかについて、文章（対談）を踏まえながら自分の考えを500字でまとめる。

※3～4段落構成とし、主張の説明として具体例を示すことが条件。

①本文から読み取った「知る」と「わかる」の相違を簡潔にまとめる。→要点をつかんで表現する力が問われる！

② ①に対して自分の考えを具体例を挙げて説明する。

③ 反対意見を想定して答える形で自分の意見を補強する。

注意：条件を満たしているか、誤字・脱字がないか見直す。

活字に触れ、言葉と思考を  
豊かにしよう

